

抗かび性試験

日本・中国の窓口

★日本

東京事業所 立石ラボ

Tel: 03-5670-3601

★中国

上海事業所

Tel:+86-21-6040-6388

【試験の目的】

私たちの身の回りに頻繁に発生する「かび」。かびは人々の健康に悪影響を及ぼすとともに、アレルギーの原因になるとも言われています。そして繊維製品に与える影響も深刻です。衣類に悪臭を発生させたり、変色の原因となります。また、時には繊維を脆化させることもあり、衣生活にとって大敵と言えます。

清潔で健康的な衣生活に貢献する繊維の機能性の1つに、「抗かび性」が挙げられます。一般社団法人繊維評価技術協議会では、抗かび性加工に関する SEK マーク認証を行っており、そのための基準・試験方法について定めています。

ニッセンケンでは織技協法をはじめ、JIS Z 2911 などの手法により、抗かび性能の評価を行っています。

【試験の方法 - 抗かび性定量試験法 - 】

一般社団法人繊維評価技術協議会・SEK マーク「抗かび性加工認証」に基づく試験です（抗かび性定量試験法）。なお、抗かび性加工は、かびの発育を抑制するものであり、かびを死滅させるものではありません。

概要：はじめにかびの前培養を行います。25℃の培養環境で、8日以上放置します。次に発育したかびから、胞子を採取し、かび試験胞子懸濁液を作製します。これを標準布と抗かび加工試料に接種します。標準布と抗かび加工試料の接種直後の試料と、25℃で42時間培養した後の試料のATP量（ATP：細胞内に存在する物質。）を測定する事で「抗かび活性値」（抗かび性を表す指標）を算出します。

評価：抗かび活性値により評価。

基準値：・洗濯回数が少なくかびが生えやすい製品 $FS \geq 3.0$

・上記以外の製品 $FS \geq 2.0$ （白癬菌に関しては特例基準あり）

※抗かび活性値計算式 $FS = (Fb - Fa) - (Fc - Fo)$

Fb：標準布42時間培養後のATP量の対数値の平均値

Fa：標準布接種直後のATP量の対数値の平均値

Fc：試験試料42時間培養後のATP量の対数値の平均値

Fo：試験試料接種直後のATP量の対数値の平均値

試験かび：クロコウジカビ、アオカビ、クロカビ、白癬菌。

なお、実際の試験の際には、上記より2種類以上のかびを選んでください。

※その他の試験方法(JIS Z2911 など)も行っております。試験菌につきまして柔軟に対応させていただきますので、お問い合わせ下さい。



一般社団法人繊維評価技術協議会の、抗かび加工 SEK マークを詳しく知りたい方は[こちら](#)へ